

博物館学関係の発展的資料。より詳しく学習したい人向け。

このリストに掲載されている資料は、授業期間中は**人文科学図書館 ラーニングcommons**で利用できます。(一部他館にしか所蔵がないものもあります)

実際に読んだもの／利用したものにはチェックをつけましょう。

博物館学の全般

キュレーションの現在：アートが「世界」を問い直す / フィルムアート社編 フィルムアート社 2015

現在「キュレーション」は、アート、美術館に限らず、さまざまな領域で使われています。多様化した方法や役割を、最前線で活動する人たちが語ります。

[人文科学図書館KULiP(ラーニングcommons) 706-9-FIL]

キュレーション：「現代アート」をつくったキュレーターたち / ハンス・ウルリッヒ・オブリスト著；村上華子訳
フィルムアート社 2013

現代アートの分野を大きく切り開いてきたキュレーターたちを追うことで、現代芸術の世界を見つめます。

[国際文化学図書館開架室 706-9-0]

博物館危機の時代 / 辻秀人編 雄山閣 2012

本書は指定管理者制度など、近年の博物館が直面する課題を正面から取り上げています。

[他に 国際文化学図書館開架室 069-021-T]

歴史のなかのミュージアム：驚異の部屋から大学博物館まで / 安高啓明著 昭和堂 2014

博物館の意義を歴史的に考察し、また海外と日本の博物館を比較検討し、今後の博物館のあり方を再検討しています。

[他に 人間科学図書館開架室 069.02-1]

日本の博物館史 / 金山喜昭著 慶友社 2001

日本の博物館の歩みを、近代以前の思想に始まり、明治時代から戦後までを通覧する。近年の動向についても、地域博物館を軸として地域振興、住民参加といった観点から考察を加えています。

[人文科学図書館KULiP(ラーニングcommons) 069-021-KAN]

思想としてのミュージアム：ものと空間のメディア論 / 村田麻里子著 人文書院 2012

本書はメディア論の見地からミュージアムを読み解き、「ミュージアムブーム」と「ミュージアム冬の時代」が同時にきている日本の思想的背景といったものを示しています。

[人間科学図書館開架室 069.0-31 など]

二十一世紀博物館：博物資源立国へ地平を拓く / 西野嘉章著 東京大学出版会 2000

ミュージアムを戦略拠点と捉え、「ヴァーチャル・ミュージアム」に代表される記憶の集積、博物資源化などを論じ、日本の博物館のあり方を検討しています。

[国際文化学図書館開架室 069-0-N]

博物館学人物史 / 青木豊, 矢島國雄編 (上、下) 雄山閣 2010-2012

明治から昭和にかけて博物館界で活躍した先人たちの生涯・博物館との関わり・研究の軌跡から、博物館学の学史と思想を見つめます。

[国際文化学図書館開架室 069-021-A//1, 069-021-A//2]

博物館の歴史 = The history of museum / 高橋雄造著 法政大学出版局 2008

ルーヴル、スミソニアン、ドイツ博物館など、主要博物館の沿革と方法論の形成過程を論じ、近代的な公共博物館が西欧に根付いてきた過程を明らかにします。さらに教育、技術史の扱いから、現代の公共博物館を展望しています。

[国際文化学図書館開架室 069-02-T]

博物館という装置 : 帝国・植民地・アイデンティティ / 石井正己編 勉誠出版 2016

近代の帝国主義や植民地主義のもとで進められた博物館の活動は、当時の政治性を反映しています。同時に、収集された資料は、近代を物語る貴重なコレクションでもあります。博物館の歴史的な位置づけ、博物館の存在意義を問い直す書。

[準備中]

大正・昭和前期博物館学基本文献集成 / 青木豊, 山本哲也編 (上) 雄山閣 2016

日本の博物館学が大きく転換した大正・昭和前期の論文のうち、散逸していた文献約80編を集成。博物館学の思想的流れが分かる資料集です。

[準備中]

大正・昭和前期博物館学基本文献集成 / 青木豊, 山本哲也編 (下) 雄山閣 2016

日本の博物館学が大きく転換した大正・昭和前期の論文のうち、散逸していた文献約80編を集成。博物館学の思想的流れが分かる資料集です。

[準備中]

明治期博物館学基本文献集成 / 青木豊編 雄山閣 2012

日本の博物館学は明治に始まっており、初期の研究状況をうかがえる文献が集められています。

[準備中]

博物館経営論

施策としての博物館の実践的評価 : 琵琶湖博物館の経済的・文化的・社会的効果の研究 / 村山皓編 雄山閣 2001

博物館の運営では、評価(自己評価・外部評価)も重要になってきています。博物館で行われている施策が、地域社会にどれだけ効果を与えているか、その評価手法等を検討しています。

[人文科学図書館KULiP(ラーニングコモンズ) 069-3-SIS]

博物館の理念と運営 : 利用者主体の博物館学 / 布谷知夫著 雄山閣 2005

利用者の視点を持った博物館にしていくには、具体的にどうすれば良いか。滋賀県立琵琶湖博物館の設立と運営の経験から、実際の取り組みを紹介し考察しています。

[人文科学図書館KULiP(ラーニングコモンズ) 069-0-NUN]

- 地域文化経済論：ミュージアム化される地域 / 寺岡寛著 同文館出版 2014

地域経済の活性化のために、公立美術館の果たすべき役割は何か。地域文化経済を創造するのがあくまで主題の経済論のなかに、美術館が登場します。

[社会科学系図書館開架室 706.9-TE]

- 「科博」次のステップに向けて / 国立科学博物館研究会編著 ジアース教育新社 2015

独立行政法人制度の中、国立科学博物館がどういった運営や展示等の活動を展開できるか、現状と課題をまとめています。国立科学博物館の事例ですが、広く博物館経営の参考になります。

[国際文化学図書館開架室 406-9-K]

- アートは地域を変えたか：越後妻有大地の芸術祭の十三年：2000-2012 / 澤村明編著 慶応義塾大学出版会 2014

新潟県開催されてきた 越後妻有アートトリエンナーレが地域に与えた影響、経済効果の有無、社会的な効果について捉えて分析。地域社会の定性的な変化についても論じています。

[人間科学図書館開架室 709.141-1]

博物館資料論

- 博物館資料論と調査 / 段木一行著 雄山閣 1998

段木氏の本書も、学芸員として文化財の調査等に長く従事した経験から、博物館資料とその調査方法について述べています。

[人文科学図書館KULiP(ラーニングcommons) 069-4-DAN]

- 博物館でまなぶ：利用と保存の資料論 / 八尋克郎, 布谷知夫, 里口保文編著 東海大学出版会 2011

博物館が収蔵している資料は、保存し後世に伝えると同時に、利用・活用するという両側面を持つ。琵琶湖博物館を軸に語られる資料論。

[他に 国際文化学図書館開架室 069-4-Y]

- 博物館資料の再生：自明性への問いとコレクションの文化資源化 / 明治大学博物館, 南山大学人類学博物館編 岩田書院 2013

本書は博物館の存立基盤は何か、というやや形而上学的な、シンポジウムでの議論をまとめている。タイトルは一見すると難解だが、資料の本物とニセモノ、資料の評価や資源化といった今日的な課題を明快に論じていて、参考となります。

[人文科学図書館KULiP(ラーニングcommons) 069-4-HAK]

博物館教育論・活用

- イギリスの博物館で：博物館教育の現場から / 小島道裕著 歴史民俗博物館振興会 2000

博物館教育の展開とその可能性を、イギリスの博物館の事例から考察しています。日本以外の実状を知れる良書。

[人文科学図書館KULiP(ラーニングcommons) 069-023-KOZ]

- 下町の学芸員奮闘記：文化財行政と生涯学習の最前線 / 小泉雅弘著 文芸社 2005

東京都江東区で文化財の担当者として働いた経験から、文化財をめぐる動向や、生涯学習との関わりから、資料を地域に還元し活用する方策などを具体的に述べています。

[人文科学図書館KULiP(ラーニングcommons) 709-136-KOI]

- つながる図書館・博物館・文書館：デジタル化時代の知の基盤づくりへ / 石川徹也, 根本彰, 吉見俊哉編 東京大学出版会 2011

資料を扱うという面で考えると、博物館(M)と図書館(L)、文書館(A)は実は非常に似通った機能と役割を持っています。デジタル化時代の、3種の施設連携についての提言。

[他に 国際文化学図書館開架室 015-7-I]

- MLA連携の現状・課題・将来 / 水谷長志編著 勉誠出版 2010

MLA連携の現状はどうなっているのか。具体例から掘り起し、それぞれが取り扱う資料の特性や組織の枠を超えた連携の方向性について考察しています。

[他に 国際文化学図書館開架室 015-7-M]

- 日本の文化施設を歩く：官民協働のまちづくり / 松本茂章著 水曜社 2015

全国のアート施設、博物館、歴史的建造物などを訪ね歩き、文化がどうまちづくりに活かされているかを紹介しています。事例が豊富。

[人文科学図書館KULiP(ラーニングコモンズ) 379-2-MAT]

- だれもが学べる博物館へ：公教育の博物館学 / 駒見和夫著 学文社 2008

公教育機関としての博物館という立場から、すべての人の利用に向け、障害者に視点を据え、運営や展示など、ユニバーサルサービスの方向性を提示します。

[他に 国際文化学図書館開架室 069-0-K]

- 世界の現場から今、博物館教育を問う：家族・学校・地域に向けての取り組み：国際シンポジウム / 東京国立博物館教育講座室・国際交流室編 国立博物館 2006

日本に留まらず広く海外の博物館から、教育普及の担当者らが集まり、博物館における教育のあり方を、家族や学校、地域との連携という観点から討論した、国際シンポジウムの記録です。

[人文科学図書館KULiP(ラーニングコモンズ) 069-0-SEK]

- 美術館のワークショップ：世田谷美術館25年間の軌跡 / 高橋直裕編；高橋直裕 [ほか] 著 武蔵野美術大学出版局 2011

世田谷美術館で開館以来、取り組まれてきたワークショップの内容を振り返り、美術館のあり方に一つの展望を示しています。

[人文科学図書館KULiP(ラーニングコモンズ) 706-9-BIZ]

- 九州大学ミュージアムバスプロジェクト：九州大学総合研究博物館×西日本鉄道株式会社西鉄バスミュージアムバスデザイン広告プロジェクト / 九州大学大学院芸術工学研究院編集 九州大学出版会 2013
九州大学が行った、博物館資料を外に出し、市民に目に触れさせようとしたプロジェクト。バス広告を利用し、さまざまな資料を印象的な写真と言葉で紹介した記録です。

[人文科学図書館KULiP(ラーニングコモンズ) 069-7-KYU]

- 欧米における図書館、文書館、博物館の連携：Cultural Heritage Sectorとしての図書館 / 菅野育子 国立国会図書館 2007

欧米で進められている“Cultural Heritage Sector”の動きを紹介する。MLAの各機関が所蔵する文化遺産を電子化し、ネットを介して一つの情報空間とするための連携の取り組み。

[<http://current.ndl.go.jp/ca1644> または <http://current.ndl.go.jp/files/ca/ca1644.pdf>]

- ミュージアムと生涯学習 / 神野善治 [ほか] 著 武蔵野美術大学出版局 2008

ミュージアムを学びの場ととらえ、実践的に博物館で行うべき生涯学習について考察し、学芸員の役割を説いています。

[国際文化学図書館開架室 069-0-K]

- だれもが楽しめるユニバーサル・ミュージアム：「つくる」と「ひらく」の現場から / 広瀬浩二郎編著 読書工房 誰もが楽しめるミュージアムのユニバーサル化を目指す、多様な取り組みを紹介。博物館側のバリアフリーの取組み、実際に語りかけ、ふれあって進められている、来館者にひらかれた展示の活動などを収録。
[国際文化学図書館開架室 069-04-H]
- さわって楽しむ博物館：ユニバーサル・ミュージアムの可能性 / 広瀬浩二郎編著 青弓社 2012
ユニバーサル・ミュージアムを実現するには何が必要か。子どもたちや視聴覚障害者など、マイノリティの知識や経験をどのように展示に生かせるか。多様な実践例からの考察。
[国際文化学図書館開架室 069-04-H など]
- ひろがる日本のミュージアム：みんなで育て楽しむ文化の時代 / 千地万造, 木下達文著 晃洋書房 2007
多様化する日本の博物館を概観。特にマルチメディア、市民や学校との連携などに重点を置いて、みんなで文化を育て楽しむ、現代の状況を見つめます。
[国際文化学図書館開架室 069-021-T]
- チルドレンズ・ミュージアムをつくろう：knowledge begins in wonder / 目黒実著 ブロンズ新社 1996
日本初の本格的チルドレンズミュージアム「遊びと学びのミュージアム」をつくった著者が、その舞台裏と今後の子どものための文化施設構想について述べています。
[人間科学図書館書庫 069.0-4]
- 世界のアーキビスト：各国アーカイブズ団体の活動 / 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会総務委員会編 岩田書院 2008
国際文書館評議会の交流レセプションで発表された、世界11カ国によるアーカイブ団体の現状、課題、及び取組みの報告集。
[人文科学図書館KULiP(ラーニングcommons) 018-09-IWA//A10]
- 歴史資料の保存と公開 / 文書館問題研究会, 横浜開港資料館編 岩田書院 2003
文書館、アーカイブズの保存・公開状況を、神奈川県内の事例から考察。関連する市史編さんや、博物館での事例報告もあり。日本のアーカイブズの現状と課題を考えるのに役立つ。
[人文科学図書館KULiP(ラーニングcommons) 018-09-IWA//7]
- 「文化力と地域の活性化を拓く博学連携」(博物館と大学との連携)記録集：大学改革シンポジウム・三重大学開学60周年記念事業 三重大学博学連携推進室「文化力形成と地域活性化」連続フォーラム担当事務局 2010
新県立博物館建設をきっかけに始まった連続シンポジウムの初回。文化力による地域活性化を目指し、地方大学の役割、博学連携を探っています。
[国際文化学図書館開架室 377-0-M]

博物館展示論

- 博物館展示と地域社会：民俗文化史からのまなざし / 西海賢二著 岩田書院 2014
歴史系(民俗系)博物館の展示批評を中心に、地域と博物館の役割を示す。地域で一人ひとりの自分史を掘り起こし、地域の歴史や文化へと広げて、博物館展示へと展開させる循環型の活動を考える。
[人文科学図書館KULiP(ラーニングcommons) 069-5-NIS]
- 歴史展示のメッセージ：歴博国際シンポジウム「歴史展示を考える-民族・戦争・教育-」 / 人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館編；小島道裕 [[ほか] 著 アム・プロモーション 2004
歴史展示で資料を教育にどう活用していくか。民族と戦争という現代社会が抱える課題を軸に展開した、国際シンポジウムの記録。
[人文科学図書館KULiP(ラーニングcommons) 069-5-REK]
- 学芸員のための展示照明ハンドブック：博物館と美術館の照明に役立つポイント / 藤原工著 講談社 2014
博物館の展示照明を実践する際の基本的事項や注意点、鑑賞者と展示物との関係性、照明リニューアルまで、展示照明について幅広い内容を、見開き1項目のスタイルでまとめています。
[自然科学系図書館3F開架室 069-5-2]

- ミュージアムと記憶：知識の集積/展示の構造学 / スーザン・A・クレイン編著 ありな書房 2009
記憶と歴史が集積する場としてのミュージアムについて考える。ミュージアムの見学者、学芸員、研究者、あるいは自然史博物館からアート・ミュージアムまで幅広い時や場所を自在に横断しながら論じています。
[国際文化学図書館書庫 069-04-C など]
- 北米の小さな博物館：「知」の世界遺産 / 北米エスニシティ研究会編 彩流社 2006
本書は好評でシリーズ3まで刊行されています。北アメリカの研究者たちが、北米の生の姿を知りえる博物館を厳選し、ジェンダー、人種、世帯などの視点から探ります。
[国際文化学図書館書庫 069-025-H]
- 地域博物館への提言：討論・地域文化と博物館 / 日本展示学会展示学講座実行委員会編 ぎょうせい 2001
地域振興で博物館の活用があげられる例も少なくありませんが、実際にどうしたらいいのか？ 地域博物館での企画立案、計画推進、建築、展示それぞれを検証、提言を行っています。
[人間科学図書館書庫 069.5-2]
- ミュージアムと負の記憶：戦争・公害・疾病・災害：人類の負の記憶をどう展示するか / 竹沢尚一郎編著 東信堂 2015
博物館で戦争や公害等々の負の記憶について展示が行われ、専門の博物館が設けられる例も少なくない。国や各地の行政が設置するのが重要であると同時に、博物館自体が、積極的に負の記憶の意味を問い直し、来館者と共に展示のあり方等を示すことは可能なのか。各地の実践例から検討している。
[準備中]

博物館資料保存論

- “オリジナル”の行方：文化財を伝えるために / 東京文化財研究所編 平凡社 2010
資料保存で修復をする際に直面する、オリジナルとは何か、という問題について説き起こしています。
[人文科学図書館KULiP(ラーニングコモンズ) 709-0-ORI]
- 文化財の現在過去・未来 / 彬子女王編 = The past, present, and future of cultural asset / Princess Akiko of Mikasa 宮帯出版社 2013
デジタル技術が進み、生活様式も大きく変化した現代において、伝統文化を支える意味を問う。伝統的手法やデジタル技術を駆使した新たな取り組みなどを幅広く取り上げています。
[人文科学図書館KULiP(ラーニングコモンズ) 709-1-BUN]
- 東京国立博物館の臨床保存 = Clinical conservation at the Tokyo National Museum / 東京国立博物館編集 美術出版社 2013
『博物館資料の臨床保存学』のいわば実践編。東博での日常の資料管理の在り方を紹介。
[人文科学図書館KULiP(ラーニングコモンズ) 709-1-TOK]
- 博物館資料保存論：文化財と空気汚染 / 佐野千絵 [ほか] 著 みみずく舎 2010
2008年の東京文化財研究所における学芸員研修がベース。博物館で文化財を保存・展示するための空気環境を獲得するノウハウを紹介しています。汚染対策など豊富な事例も報告。
[他に 国際文化学図書館開架室 069-4-S]
- 文化財科学の事典 / 馬淵久夫 [ほか] 編集 朝倉書店 2003
資料を保存する際に必須となる、文化財科学の用語を網羅的に取り上げ、簡潔に説明している事典です。
[人文科学図書館KULiP(ラーニングコモンズ) 709-033-BUN]
- 文化財学の新天地 / 国立文化財機構奈良文化財研究所編 奈良文化財研究所 2013
奈良文化財研究所が開設以来取り組んできた、遺跡調査や保存科学の成果を網羅した論文集。資料保存関係の論考も充実しており、より専門的な学習時に参照して下さい。
[人文科学図書館KULiP(ラーニングコモンズ) 709-1-BUN]
- 元興寺文化財研究所創立40周年記念論文集 / 元興寺文化財研究所, 元興寺文化財研究所民俗文化財保存会編集 クバプロ 2007
文化財保存は大きく、地域資料保存、理化学的保存科学に分かれます。本書は保存科学の中心的役割を果たしてきた研究所による論文集で、保存科学の各専門分野の最新動向を知ることが出来ます。
[人文科学図書館KULiP(ラーニングコモンズ) 709-1-GAN]

- 文化財の防災計画：有形文化財・博物館等資料の災害防止対策 / 半澤重信著 朝倉書店 1997
文化財の所有者や、博物館、行政担当者といった人々が、文化財をどうやって盗難や地震・火災などの被害から守るか。建築計画の領域から代表的な災害への対処方法を述べています。1997年刊の普及版
[他に 人文科学図書館書庫 709-1-HAN]
- 東日本大震災美術館・博物館総合調査報告：全国美術館会議 / 全国美術館会議東日本大震災美術館・博物館総合調査分科会, 全国美術館会議事務局編集 全国美術館会議 2014
東北地方太平洋沖地震では、被災地域の美術館・博物館等も大小の被害を受けました。全国組織である全国美術館会議が取りまとめた、博物館等被害の報告。
[人文科学図書館KULiP(ラーニングcommons) 709-1-HIG]
- 博物館と文化財修理：特集陳列：九州国立博物館文化財保存修復施設開設3周年記念 / 九州国立博物館編集 九州国立博物館 2008
国立博物館には文化財の保存修理所があり、九州にも開館にあわせて出来ました。保存修理の九博での実践活動の成果を紹介する内容です。
[人文科学図書館KULiP(ラーニングcommons) 709-1-HAK]
- まねる・まねぶ・まなぶ：複製にみる教育と保存 京都工芸繊維大学美術工芸資料館 2015
複製、模写は美術教育において重要な意味を持ちます。また複製を作るというのは保存においても無視できない手法です。複製とは何かを追究した展示の記録であり、学生たちによる展示作成記録でもあります。
[人文科学図書館KULiP(ラーニングcommons) 707-0-MAN]
- 阪神大震災美術館・博物館総合調査報告 / 全国美術館会議, 阪神大震災美術館・博物館総合調査編集員編 全国美術館会議 1995
全国美術館会議による、1995年の阪神・淡路大震災における、美術館等の被害報告。
[他に 人間科学図書館書庫 369.31-74//1, 369.31-74//2]
- 安定化処理：大津波被災文化財保存修復技術連携プロジェクト = “Stabilization processing” : multi-organizational co-operative project for preserving and restoring cultural assets damaged by Tsunami on March 11th, 2011 / 津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会, 赤沼英男, 鈴木まほろ編集 日本博物館協会 2015改訂版
東北地方太平洋沖地震で被災した文化財は、津波で海水や泥を被るという大きな特徴がある。物理的損壊に加え、カビなどから文化財を救出する一連の手段は、安定化処理、という言葉に集約される。被災文化財救出の動きと課題を見つめる。初版も書架にあり。
[人文科学図書館KULiP(ラーニングcommons) 709-12-ANT]
- よみがえる!六角堂：震災復興のシンボルとしての六角堂再建記録：総集編 / 天心・六角堂復興プロジェクト 茨城大学
2011年の東日本大震災で、津波で流失した六角堂の再建記録。文化財が建築や美術など本来の価値に加え、新たに復興の精神的支柱として価値を獲得しているのが分かります。
[人文科学図書館KULiP(ラーニングcommons) V-36-YOM]
- 所蔵資料図録：暮らしのなかの震災資料 / 阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター資料室編集 阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター資料室 2016
阪神・淡路大震災の博物館的資料を収集保存する、人と防災未来センター。センターが保存する資料を写真付きで紹介する、初の本格的な図録です。災害とは何か、地域資料とは何かを考える際の貴重な目録です。
[人文科学図書館KULiP(ラーニングcommons) 369-31-SYO]
- 考古資料の修復・複製・保存処理 / 宮内庁書陵部陵墓課編 学生社 2009
土器や鉄製品、石造物といった考古・歴史資料の保存について、実際の処理過程を丹念に記録、紹介しています。宮内庁書陵部が例年行っている展示会の資料集。
[人文科学図書館KULiP(ラーニングcommons) 210-2-KUN]
- 博物館資料の修復と製作 / 内川隆志著 雄山閣 2004
博物館資料の修復や製作は、展示公開という教育普及機能を充足させる上で、重要な方法です。資料の修復や製作を通して、保存だけでなく活用までを見通す姿勢が必要なのが分かります。
[人文科学図書館KULiP(ラーニングcommons) 069-4-UTI]

- 文化財学の課題：和紙文化の継承 / 湯山賢一編 勉誠出版 2006
世界文化遺産・醍醐寺の史料を事例としながら、和紙に関して、性質、作り方、修理、史料情報まで多岐に渡って学びます。
[人文科学図書館KULiP(ラーニングcommons) 585-6-BUN]
- 文化財・保存科学の原理：文化財の劣化・損傷要因とその保存対策 / 丹青総合研究所, 丹青社企画・編集 丹青社 1990
文化財を、その物自体に極力手を加えず、気候や照明、虫などからの劣化をどう防ぐか。資料の劣化や損傷要因を個別に解説しながら、対策についても示しています。
[他に 社会科学系図書館書庫 2-7-538]
- 紙と本の保存科学 / 園田直子編 岩田書院 2010
図書館・保存科学・修復・紙パルプ科学・分析化学などの異分野の研究者たちによる共同研究成果。紙や本という「もの」の保存に焦点をあて、専門の立場から執筆した基礎文献。
[国際文化化学図書館開架室 014-6-S]
- 動産文化財救出マニュアル：思い出の品から美術工芸品まで / 動産文化財救出マニュアル編集委員会編 クバプロ 2012
1995年の震災以来、各地での災害の度に蓄積されてきた文化財レスキューの知識と経験をまとめています。美術品からアルバム、仏壇といった日常的な品々まで、種別に救出作業の基本を指南。2011年災害の
[人文科学図書館KULiP(ラーニングcommons) 709-1-DOS]
- 文化資源の保存、活用及び創造を支える科学技術の振興 / 科学技術・学術審議会
文化財を含む資料保存に関して、具体例に則ってその保存活用の技術等をまとめています。
[http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu3/toushin/04021901.htm]
- 技術の歴史を未来に役立てるためには：産業技術の歴史国際シンポジウム報告 / 国立科学博物館「産業技術史資料の評価・保存・公開等に関する調査研究」企画推進委員会 編 国立科学博物館 2001
博物館資料の中でも、近代以降の産業技術に関する資料の活用は、まだ研究途上にあります。産業技術の活用について議論した国際シンポジウムの記録。
[<http://sts.kahaku.go.jp/diversity/document/pdf/322151.pdf>]
- 博物館の環境管理 / ギャリー・トムソン著；東京芸術大学美術学部保存科学教室訳 雄山閣 1988
博物館における展示品などの環境、特に光・湿度・汚染大気について、実際面からわかりやすく解説。
[海事書庫1 069-4-1]
- よみがえる国宝：特別展：守り伝える日本の美 / 九州国立博物館編 九州国立博物館 2011
九州国立博物館が実際に行ってきた保存修復作業とその成果を展示の形でまとめたもの。伝統的技術を用いた修復がよく分かります。
[人文科学図書館KULiP(ラーニングcommons) 709-1-YOM]
- 博物館・美術館の生物学：カビ・害虫対策のためのIPMの実践 / 川上裕司, 杉山真紀子著 雄山閣 2009
カビや昆虫から資料をどう守ったらいいのか。IPMの解説もしながら、具体的な対策を紹介しています。
[国際文化化学図書館開架室 069-4-K]
- 文化財害虫事典：博物館・美術館におけるIPM(総合的害虫管理)推進のために / 文化財研究所東京文化財研究所編 クバプロ 2001
文化財の保存管理における大敵の一つが虫やカビです。IPM対策で欠かせない害虫の基礎知識をまとめた事典です。改訂版もあり(自然科学図書館)
[人文科学図書館KULiP(ラーニングcommons) 069-4-BUN]
[改訂版は自然科学系図書館参考図書709-0-6]

- 日本のものづくり遺産：未来技術遺産のすべて / 国立科学博物館産業技術史資料情報センター監修 山川出版社 2015

日本の産業技術遺産を網羅的に紹介し、日本で生まれた技術革新の歴史を通覧します。「未来技術遺産」(重要科学技術史資料)を登録分野ごとに解説。

[社会科学系図書館開架室 502.1-KO など]

- ブルーシールド：危険に瀕する文化遺産の保護のために：国際図書館連盟第68回年次大会(2002年グラスゴー)資料保存コア活動・国立図書館分科会共催公开发表会報告集 / コリン・コッホ編集・翻訳；国立国会図書館日本語訳 日本図書館協会 2007

ブルーシールドとは、戦争や災害から文化財を保護する「文化財のための赤十字」である。活動を周知するためのセミナー報告。紹介文あり：<http://current.ndl.go.jp/e688>

[社会科学系図書館書庫 014.6-KO]

- 保存環境を整える：厳しい気候、各種災害から資料をいかに守るか：第7回資料保存シンポジウム講演集 / 国立国会図書館編 日本図書館協会 1997

中国、韓国、ベトナム、モンゴルの資料保存の現状から、さまざまな環境下での保存、災害からの保護について考える。「資料保存シンポジウム」の内容は下記リンクも参照。

<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/preservation/coop/symposiums.html>

[社会科学系図書館書庫 14-4-2746 など]

- 史料の被災と救済・保存：福井史料ネットワーク活動記録：敦賀短期大学地域交流センター公開シンポジウム / 敦賀短期大学地域交流センター編 敦賀短期大学地域交流センター編 2006

2004年の福井豪雨をきっかけに結成された、福井史料ネットワークによる被災資料保存活動をまとめた記録。

[人文科学図書館KULiP(ラーニングコモンズ) 014-6-SIR]

- 博物館・文書館・大学の資料修復 / 敦賀短期大学地域交流センター編 敦賀短期大学地域交流センター 2005

敦賀短期大学で行われた講座の記録。過去の歴史遺産を未来につなげる文化財の修復について、博物館、文書館、大学それぞれの立場から考えます。

[人文科学図書館KULiP(ラーニングコモンズ) 069-4-HAK]

- 水損史料を救う：風水害からの歴史資料保全 / 松下正和, 河野未央編 岩田書院 2009

文化財、歴史資料が災害で被災する時、地震に次に多いのが洪水などの水害です。風水害にあった資料をどう救出するか、現場での開拓を踏まえた紹介。

[他に 国際文化学図書館開架室 014-6-M]

- よみがえる被災火焰型土器：新潟県中越地震で被災した津南町所蔵の縄文土器の修復記録 クバプロ 2005

2004年の新潟県中越地震で、縄文時代の火焰型土器が被災。展示で借用を予定していた博物館と地元が協力して行った修復の記録です。

[国際文化学図書館開架室 210-2-K]